

関係機関・団体長
病虫害防除員
農薬管理指導士

様

山口県病虫害防除所長

イチゴ病虫害発生状況調査結果(技術資料第9号)について

10月25日~27日に調査を実施し、下記のとおり取りまとめましたので防除指導の参考にしてください。

1 発生状況及び今後の予想

病虫害名	発生現況 (平年比)	発生状況	今後の予想
うどんこ病	やや少	一部ほ場で多発生が確認された。	平年並
炭疽病	やや多	定植後も発病が続いており、多発生となった。	やや多
アブラムシ類	多	8月以降の黄色水盤トラップの誘殺数が平年に比べやや多く、また高温少雨傾向の気象が続いたことから、多発生になったと考えられる。	多
ハダニ類	多	9~10月の高温のため、苗からの持ち込みがあったほ場で多発生になったと考えられる。	多
ハスモンヨトウ	少	9~10月のフェロモントラップの誘殺数は平年に比べやや多かったが、定植前後の防除により本ほでの発生は抑えられたと考えられる。	少

注1) 県内42ほ場(土耕栽培20ほ場、高設栽培22ほ場)の調査結果。

注2) 発生現況及び今後の予想は、過去10年間の調査(15ほ場)における発生量から判定。

2 今後の対策

(1) うどんこ病

発病後の防除が難しいため予防を徹底する。発病した葉や果実は処分し、ハウス内に伝染源を残さない。

(2) 炭疽病

罹病葉を除去し、薬剤で防除する。発病程度の高い株は抜き取り処分する。

(3) アブラムシ類、ハダニ類

ア 多発後の防除は困難なので、下葉の葉かきをこまめに行う一方、ほ場をよく観察して早期発見に努める。

イ ナミハダニ(黄緑型)の肉眼での発見は困難なため、拡大鏡等で確認するか、葉裏に白い紙を擦り付けて、ハダニ類が潰れた赤やうす緑色の跡を確認する。

(4) ハスモンヨトウ

葉かき時などにほ場をよく観察し、卵塊や幼虫を発見したら直ちに捕殺する。

(5) その他

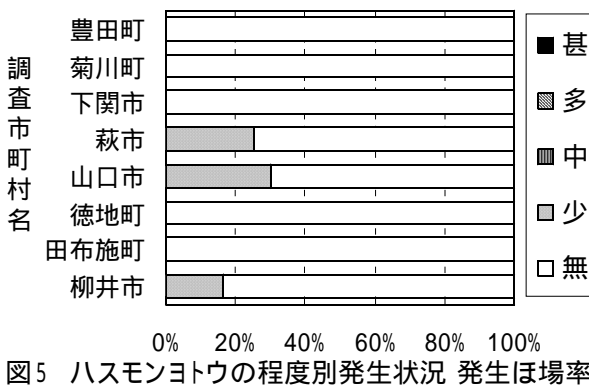
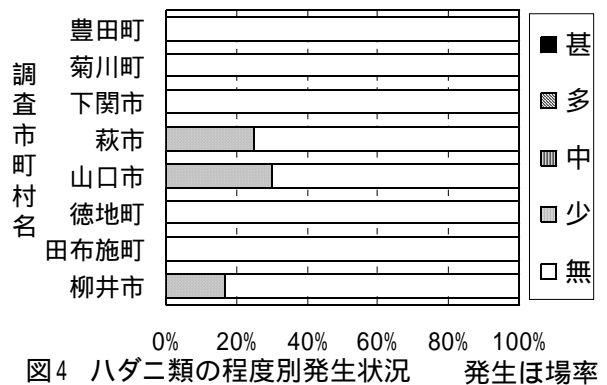
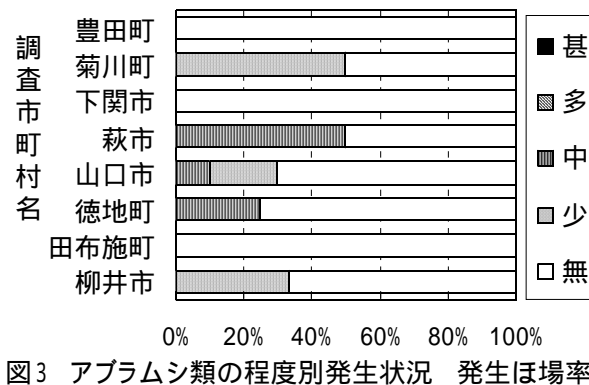
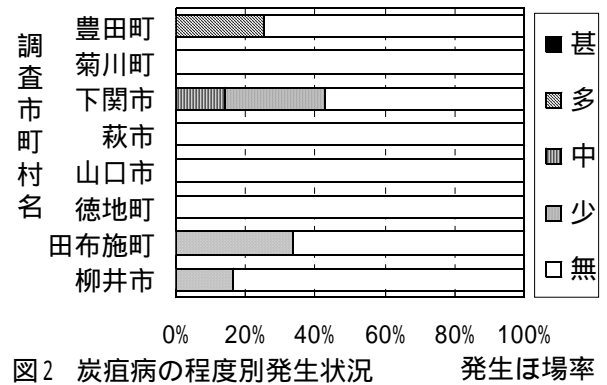
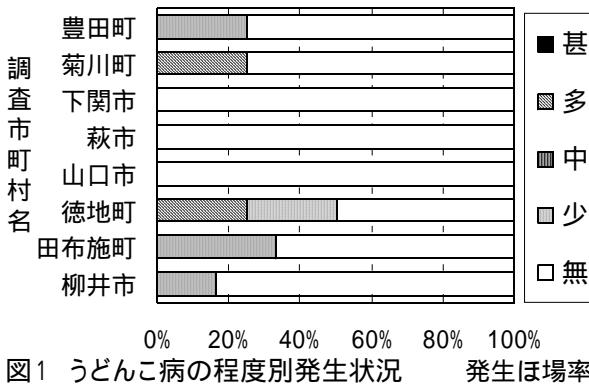
薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統薬剤の輪用は避け、薬剤散布の際は、薬液が葉の裏に十分かかるように丁寧に散布する。また、開花期以降は訪花昆虫に影響の少ない薬剤を使用する。

表1 市町村別発生状況

調査市町村	調査ほ場数	うどんこ病		炭疽病		アブラムシ類		ハダニ類		ハスモンヨトウ	
		発病ほ場率 (%)	発病株率 (%)	発病ほ場率 (%)	発病株率 (%)	発生ほ場率 (%)	寄生株率 (%)	発生ほ場率 (%)	寄生株率 (%)	発生ほ場率 (%)	寄生株率 (%)
柳井市	6	16.7	0.7	16.7	0.2	33.3	2.0	33.3	5.0	16.6	0.3
田布施町	3	33.3	6.0	33.3	3.3	0	0	100.0	50.7	0	0
徳地町	4	50.0	20.0	0	0	25.0	7.0	25.0	7.0	0	0
山口市	10	0	0	0	0	30.0	6.2	20.0	16.2	30.0	0.6
萩市	4	0	0	0	0	50.0	16.5	25.0	0.5	25.0	0.5
下関市	7	0	0	42.9	3.4	0	0	0	0	0	0
菊川町	4	25.0	22.0	0	0	50.0	7.5	0	0	0	0
豊田町	4	25.0	2.5	25.0	7.0	0	0	25.0	25.0	0	0
県内平均 (42)		14.3	4.8	14.3	1.5	23.8	4.7	23.8	11.3	11.9	0.2

表2 栽培様式別発生状況

栽培様式	ほ場数	うどんこ病		炭疽病		アブラムシ類		ハダニ類		ハスモンヨトウ	
		発病ほ場率 (%)	発病株率 (%)	発病ほ場率 (%)	発病株率 (%)	発生ほ場率 (%)	寄生株率 (%)	発生ほ場率 (%)	寄生株率 (%)	発生ほ場率 (%)	寄生株率 (%)
土耕栽培	20	5.0	0.2	15.0	2.2	11.9	2.5	25.0	9.7	7.1	0.2
高設栽培	22	22.7	8.9	9.1	0.9	31.0	5.2	30.0	18.1	7.1	0.1



山口県病害虫防除所
 担当：岡田、岩本
 TEL(083)927-4006
 FAX(083)927-4071